

農家の男は「かっこいい」。

これまで日本でも外国でも、いろんな職業の人に会いました。その中でダントツにいい顔をしているのは農家。一体どこが魅力的なのか考えてみました。

まず行動力。やってみて失敗することもあるけど、情熱と手際はすごい。「もっこす」だけに、なんでも自分で解決します。

次に寛容さと忍耐力。農業は自然や生き物が相手。全てが思い通りにはなりません。他人の失敗も責めず笑いながら助ける。簡単



なようで、なかなかできないことです。

最後に合理的な考え方。

農家は無駄な仕事をなるべく減らそうと頭を使います。家ごと、作業ごとに知恵と工夫があり、それに出合うたびに感動を覚えます。

でも、そんなふうの魅力的な先輩たちが、実の息子からは違って見えるのは不

農家はかっこいい

大津 耕太（農業）

思議。彼らからは「おやじと一緒にだけは飲みたくな

に山登りや温泉に出かけるようになりました。あと少し仕事をすれば自立した老後が送れるかもしれませ

農家は一つ屋根の下で暮らしているの、上司が家に住んでいるようなもの。私も作業中、叔父にしかられ

ん。ただ、同年代の農家が現役でかっこよく仕事をしていることを考えると、ちよっと寂しい気もします。

ますが、家は別だし、おやじでない分、あまり頭にきません。いい意味で遠慮があるのかも。

がむしゃらに働いた時から解放されたからこそ、人に喜ばれることをしてほしい。夢や情熱を持っていろんなことにじっくりと挑戦してほしい。それが息子が望む「かっこいい」おやじの姿かもしれませぬ。

私の父はといえば、五十年代で仕事を辞め、今は専業主夫。庭は立派な菜園になり、料理も覚え、母と一緒に

の姿かもしれませぬ。